

千代田区子ども支援課・子育て推進課の保育の質を支える取り組み 小さなネットワークづくりとこれからの保育



千代田区 北の丸公園

近隣企業や町会のみなさんと
打ち水で暑さを吹き飛ばす



「安全見守り隊」の方と



区立中学校の屋上庭園
「いつも使わせてくれて
ありがとう」



千代田の祭
神田祭・山王祭
みんなで一つになって



本パンフレットでは、千代田区の子ども支援課・子育て推進課が行ってきた、保育の量拡充にともなう、“質を支える”取り組みをご紹介します。園を中心に、地域での小さなネットワークづくりを重ねていくなかで、子どもたちや保育者が、千代田区のさまざまな人・もの・ことと出会いながら、地域の中で生き生きと過ごす姿が見られるようになってきました。ご紹介する取り組みは、主に退職園長である巡回指導員を中心に進めてきたものですが、区内外のさまざまなご協力・ご支援のもと、実現しているものです。お読みくださる皆様にとって、何か気づきや考えるきっかけになれば幸いです。

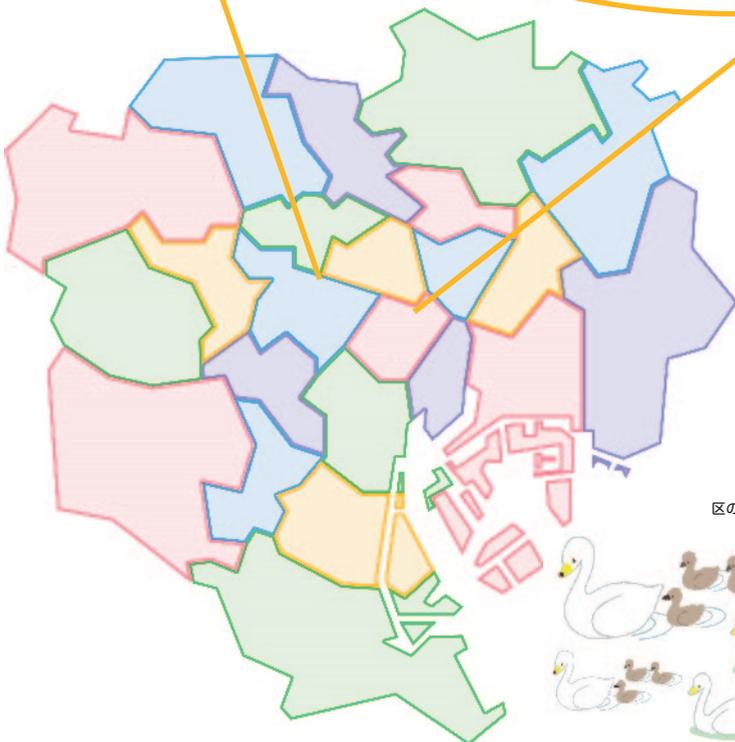
千代田区概要



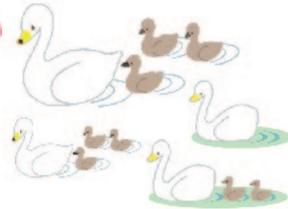
区の木「まつ」



区の花「さくら」



区の鳥「はくちょう」



項目	平成27年10月1日現在
昼間人口（千代田区）	853,068人
夜間人口（千代田区）	58,406人
世帯数（千代田区）	33,262世帯

種 別	平成30年4月	
	保育所数	定員数
区立保育園	4	416
こども園	2	346
幼保一体施設	2	195
認証保育所	10	317
緊急保育施設	1	40
私立認可保育所・認定こども園	9	825
区補助対象保育室	2	66
小規模保育	1	10
家庭的保育	2	10
事業所内保育	2	10
居宅訪問型保育	—	25
合計	35	2,260

千代田区の保育の量・質の向上に関わるこれまでの取り組み

【平成30年度 子ども支援課の組織目標】

保護者の多様な働き方に応じた教育・保育の形態が選べ、どの教育・保育施設・事業でも子どもたちが健やかに成長できるような良好な環境を整備します。

【平成30年度 子育て推進課の組織目標】

保護者の多様なライフスタイルに応じた子育てができる環境を整えます。

年度	平成19 2007	平成20 2008	平成21 2009	平成22 2010	平成23 2011	平成24 2012	平成25 2013	平成26 2014	平成27 2015	平成28 2016	平成29 2017	平成30 2018
保育所数	11	11	12	14	17	19	22	25	28	30	31	35
うち私立 認可・認証	3	3	4	5	7	9	10	12	14	15	16	19
定員数	783	769	819	994	1,138	1,310	1,391	1,557	1,764	1,918	2,026	2,260
区の状況	退職園長の雇用開始 認証保育所の増加 代替園庭が議会で取り上げられる 私立認可保育所等の増加 公私が半々に 「子どもが健やかに育つための環境の確保に関する条例」施行（平成27年） 『私立認可・認証等保育園の概要－保育所保育指針改定に伴う取組み』刊行（平成29年）											
子ども支援課・子育て推進課の取り組み例	就学前プログラム	就学前プログラムに関する取り組みを開始		就学前プログラム作成		就学前プログラム（平成25年度カラー版）を発行、配布と報告書に関するアンケートを実施		就学前プログラムのアンケートの集計まとめを、各園に配布		区長の強力なバックアップも		
	代替園庭	完全確保、保育者全体の支援が急務だった		千代田区の様々な地域資源を発掘		区内のすべての公園の調査、私立園アンケート		各公園の課題、園のニーズをふまえ、区内他部署と調整、公園の整備開始		代替園庭でのアダプト制度の活用		
	巡回・研修	非常勤職員研修、救命救急研修の実施		日常的に知り合うための巡回		他園での体験保育・施設見学開始（私立認可保育所・認定こども園と認証保育所も）		他園と学び合える貴重な機会！		外部講師を招いた園内研修の支援		外部研修年3回→年5回に
	外部との協力									危機管理の専門家をアドバイザーとして迎える		研究機関（東京大学 Cedep）と共同開始

千代田区では、この条例を施行したことで、園への巡回訪問や代替園庭の整備が積極的に進められています。取り組みの大きな後押しになっています。

子どもが健やかに育つための環境の確保に関する条例（平成26年12月8日条例第40号）（施設支援）

第7条 区は、事業者が実施する保育・教育サービス事業の質の向上を図るため、区が保有する施設を活用できるよう必要な支援を行うものとする。

2 区は、保育等施設の種別にかかわらず、子どもがのびのびと外遊びができるよう、事業者が運営する保育等施設が園庭の代替として活用できる場所の確保に努める。

3 区は、子どもが健やかに遊べるように、事業者が区の保有する校庭、園庭、公園及び児童遊園を子どものための遊び場として利用できるように努める。

千代田区担当課長よりみなさまへ

私は、2014年4月から保育行政に初めて携わり、早くも5年目を迎えました。右も左も分からない中で、様々な人に支えられながら無我夢中で取り組んできたことを、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センターの方々からご提案があり、今回このような形で取りまとめていただき、望外の喜びでございます。

千代田区は、日本の首都である、東京の顔であるとともに、江戸開府以来400年以上の歴史・文化が町と人々の生活に息づいております。しかし、バブル経済がはじけた後、区の人口が4万人を切る時代がございました。その後、区は人口回復を図るため、次世代育成施策に重点を置いて取り組んできたこともあり、2018年1月現在では6万人を超える人口にまで回復しております。しかしながら、急激な人口回復に伴って保育需要も急増しており、新たな保育所の整備に取り組んでおりますが、保育の質の維持・向上については、大きな課題として浮かび上がってきました。

本区としては、子どもが等しく、健やかに学び、遊び、成長できるためには、保育の質の維持・向上が不可欠と考えており、今回ご紹介いただいた取り組みを続けております。地域の皆様や関係機関からのあたたかいご協力のもと、巡回指導員（区立保育園の退職園長）や区職員とともに考えた上で、保育の質を維持・向上すべく、区立・私立の各保育園とともに取り組んでまいりましたが、ご覧いただいた皆様からご指導ご鞭撻をいただければ幸いです。



加藤：一日保育士体験に毎年参加

子ども支援課長
加藤 伸昭



大森（巡回指導員）：
コミュニティサイクル“ちよくる”を使って
千代田区内を縦横無尽！

ちよくる=千代田区コミュニティサイクル。どこのサイクルポートでも、レンタル・返却ができます。



福田（巡回指導員）：
区立園プールを貸し出す日には
巡回で見守りや準備も

子育て推進課の取り組み

年度初めの0歳児保育の応援

千代田の園に寄り添い、
困ったことがあれば一緒に考え
子ども達がより健やかに
過ごせるよう園を支えています

- ・年度の初め、長く保育者をしてきたからこそわかる0歳児室の大変さに共感。
- ・監督ではなくその園の保育を応援する。
→一緒に保育を行う仲間になる。

元保育者、元園長として
できること…

園長の相談相手

- ・園長は、運営と現場の保育者の間で、孤立しがち。悩みを話してもらい、それを聞いて、一緒に解決策を考える。

保育者に寄り添う

保護者の声を力にする

保護者の声を振り返りのチャンスにする

- ・区役所窓口で保護者からの相談を受けることも。
- ・その園に行き、解決策を一緒にとことん考える。
- ・時に専門家の助言を受ける。

アポイント無しの巡回指導(園訪問)

- ・いつもの保育を見る、良いところを伝える、語り合う。
- ・頻繁に訪問することで、何かあると気づきやすい。

保育者の力になる

巡回だよりの作成

- ・千代田の園や他自治体で見学した園の保育アイデアを、各園と共有。



保育者の声からつくる

聞くより見る (体験保育・施設見学)

- ・訪問する側も受け入れる側も、双方にとって学びの機会になるように、各園の要望や課題に合わせて組み合わせを工夫する。
- ・他園での体験保育や施設見学にともない発生する保育士不足等について、工夫を一緒に考えて実施を実現してもらう。
- ・体験保育・施設見学に同行して各保育者の学びを見守ったり、先輩保育者としての気づきをその場で共有したりすることも。





区内を回って園と公園、
利用協力施設をマッピング。

区民の声から 変える

代替園庭の整備

- ・園庭の無い保育所の急増
→代替園庭確保が急務に
- ・議会でも質問が上がった。
- ・自転車（「ちよくる」）に乗って、区内公園を調査。
- ・園庭無し園へのアンケート。
- ・調査結果に基づく具体的提案をもって道路公園課に相談。



改修後



低年齢児でも安心して遊べる公園に。

アダプト制度の活用



都から区の公園に植物が無償で提供される制度
近隣の園児が都市公園内の花壇で植物を植え、その成長をお世話して見守っています。



道路への飛び出しを防ぐため
プランターを公園入口に新設。



乳幼児が使える
遊具の導入。



砂場や柵の設置。

水遊び経験の確保

- ・園庭やテラスの無い園
→園内では辛い活動のひとつである水遊びの経験を保障したい。
- ・プールが設置できる地域の施設にプールの利用や場所の提供を依頼。
- ・設置場所の施設職員が、プールを準備したり水を入れたり、プールの監視員が安全管理を行うなど協力している。



施設の方がプールの準備や水入れをしていただきます。



施設プールが利用できない3歳児は
脇に設置したビニールプールで。



園外活動用バス：子どもの足では少し遠い場所へは課が契約した企業バスを活用。指定した時間にバスが乗降場所まで待機。指定した乗降場所でバスを降り、北の丸公園の広場へ。



公園安全利用指導員（通称・安全見守り隊）に見守られながら…警察OB/OGの、さすがの安全見守り技術です。

地域資源の活用

他の専門 分野の人を 巻き込む



区立中学校屋上を使用させていただくことも。芝生の上で思いきり遊んだり、夏に水遊びも楽しめます。写真は校長先生にお礼の手紙を渡しているところ。

これらの写真を園に掲示して、保護者にも伝えます。



公園安全利用指導員（安全見守り隊）のみなさんへ、子どもたちからの手紙。

園や地域が認めあい、尊重しあい、

保育者に寄り添う

- 子育て推進課のもっとも大切な仕事のひとつは、千代田区の園に寄り添い、困ったことがあれば一緒に考え、子どもたちがより健やかに過ごせるよう園を支えることです。特に、近年急増した私立園では、物的・人的に厳しい状況にある園も少なくありません。保育に多くの役割が期待される中で、**園長や保育者が孤立しないよう**、物理的にも心理的にも支援が必要です。子どもたち、保護者、保育者のために、区として責任をもって保育の質の確保や向上の支援をしていきたいと考えています。
- 課の担当職員が行っている巡回指導（園訪問）では、さまざまな困難に直面して戸惑っている園長や保育者の話に耳を傾け、巡回以外の時間でも援助要請があれば、できる限り園に出向きます。少しずつ人間関係、信頼関係を築きながら、**いつでもアクセスできる相談相手**として、地域の中で園が孤立しないように心がけています。なかには、保育の実践知が継承されにくく、日々の保育で悩みを抱えている園もあります。その場合は、目の前の問題から、何に困っているのか、一緒にどうしたら良くなるかの具体的な方法について考えます。必要であれば、担当職員が持っている実践知だけでなく、**これまでの保育経験・園長経験を通して培ってきた幅広い人脈を駆使**して支援を行ったり、他園からの学びの機会を提供したりしています。

保護者の声を力にする

- 園と保護者のコミュニケーションが難しい場合や、保護者の不安が特に大きい場合など、園だけでは対応が困難な事例があります。区役所の窓口で保護者から問い合わせをいただくこともあります。そういう時は、園に行き、園長や保育者と一緒に保護者の話を聞いたり、どういう対応が良いかを園と一緒に考えたりします。**保護者の声は、園の保育について考えるチャンス**だとも言えます。日頃の保育をふり返りつつ、園が保護者のために疲弊しないよう、円滑な関係づくりを支援しています。時には、専門家を招いて知恵を借りながら、とことん一緒に考え、園と保護者の相互理解をはかります。

保育者の力になる

- 千代田区では、まず保育の実態を把握するため、**アポイントを取らずに巡回を行っています**。はじめは拒否反応を示されることもありましたが、認可園でも都の認証を含む認可外の園でも、区の助成金が払われていますので、いつもの保育を見せさせていただきたいとお伝えし、受け入れてもらっています。いつもの保育を見せると、それぞれの園の良さと同時に、抱えている課題も見えてきます。
- 少なくとも**月に一回、多ければもっと頻繁に園を訪問**することで、先生方も思いを話してくれるようになりますし、頑張っていることや良くなったことも見えてきます。良い部分は、積極的に言葉にして伝えるようにしています。また、園の日常を知っていることで、いつもと違う様子の中には、「何かあったのかな」「悩みがあるのかな」と気づくことができます。課の担当職員同士は、互いに矛盾することを園に伝えないよう、日頃からコミュニケーションを密に取っています。
- 新年度のはじめ、特に**0歳児クラス**では保育で先生方が苦勞される姿をよく見ます。やむを得ない時には、課の担当職員が長年の保育経験を生かして、**一保育者として保育の援助に入る**こともあります。このように、頻繁な巡回訪問や、時には保育に入って具体的に援助をすることで、数年かけて、少しずつ園との信頼関係が築かれてきたように思います。
- 各園を訪問する中で、環境構成の部分でより良くできる園が多くありました。そこで、各園に定期的に配布している**巡回だより**に、千代田区の**色々な園の具体的な環境構成の工夫を写真入りで紹介**して、知恵を共有しています。自分の園の保育が紹介されることが励みになることもあるようです。

保育者の声からつくる

- 頻繁に園を巡回訪問することで、各園が抱えている課題や、良い変化が生まれるために必要な支援が浮かび上がってきます。そこで、**それぞれのニーズに応じた学びの機会**を作っています。
- 自分たちの保育を語り合う時間や、職員同士の関係性構築が必要な園では、**園内研修の支援**をします。園内研修実施にあたって生じる人員や時間確保の難しさを園単独で乗り越えられない場合は、どうしたら良いかを一緒に考え工夫することもあります。
- 他の保育実践を見て視野を広げるために、参加者の他園見学希望を集め、受け入れ園側の状況も考慮して組み合わせを決め、両者の学びの機会になるよう**保育者の体験保育・施設見学**を実施しています。
- 保育にまつわる新しい知見を学ぶために、千代田区の園のニーズをふまえて、**外部講師を招いた研修会**も年に5回、実施しています。最近では、区立園だけでなく、私立園の保育者の参加が大きく増えています。日頃の巡回などを通して、信頼関係や学びたいという気持ちが高まった結果だとすれば、これほど嬉しいことはありません。

「ともに生きる」ことをめざして

区民の声から変える

- 待機児童対策が喫緊の課題となり、平成21年頃から園庭のない私立の保育所（認証・認可外）が急増しました。そして、屋外での遊びの経験を保障するために代替園庭の確保が急務となりました。平成26年に、区民の代表である議会での質問を受け、千代田区内のすべての公園と遊具を調査しました。また、園庭のない私立園にアンケートを行い、代替園庭として必要な条件を整理し、公園の実態や代替園庭として活用するためのニーズの積み上げを行いました。
- 公園の改修にあたっては、道路公園課に具体的な提案をもって何度も相談しに行き、区民の公園でありながら、乳幼児の保育でも活用できる公園の環境整備に取り組んできました。今では、公園の改修によって、代替園庭として生まれ変わった公園がいくつもあります。議会を通して反映される区民の声が、保育の改善を支えてくれた事例です。改修された公園では、都から区の公園に植物が無償で提供されるアダプト制度を活用し、園児が植物を育てている事例もあります。
- 夏場に水遊び体験を行うため、近隣の区立園の設備や地域の施設（高齢者施設やスポーツ施設など）を貸してもらい、巡回指導員の引率のもと水遊びを行なっています。園向けの利用手順を作成し、手続きをわかりやすくしています。地域の施設の利用には、高齢介護課や生涯学習・スポーツ課の協力も得ました。区立園でも私立園でも、異なる環境の中でも子どもたちの豊かな遊び体験が保障されるよう、地域のネットワークを駆使しながら、様々な工夫をしています。

他の専門分野の人を巻き込む

- 千代田区の取り組みのもっとも大きな特徴は、地域の物的・人的活用のネットワーク形成にあります。担当課の課長や巡回指導員など担当職員を中心に、区役所内外のネットワークを駆使して、保育における地域資源の活用を支援してきました。
- 教育委員会事務局の協力のもと、区立の小中学校の施設を借りられるシステムを整備しました。施設を借りるための手順書を作成し、気軽に利用しやすいシステムを作りました。通学用に使用していたバスを、送迎時間以外に園の保育に利用できるシステムを作り、園庭のない園の子どもたちが、自然豊かな公園や文化施設に出かけることができるようにしました。
- 警察OBからなる公園安全利用指導員（通称：安全見守り隊）の協力のもと、代替園庭に出かける際の安全見守りを定期的に行っていただいています。人手不足の園にとって、地域のことをよく知っている大人の目が一人分増えるだけで、外出時の負担が和らぎます。
- 他にも、地域の自治会や企業との繋がりの中で、地域のお祭りに園児が参加したり、企業の施設を使わせてもらったりという協働も生まれてきました。
- 最後には、園や子どもたちからのお礼の気持ちを、手紙や写真で届けます。それまで、乳幼児のことは他人事だった担当課や企業なども、子どもや保育者の声を受け取ると、顔をほころばせてくれます。こういう人と人との関係を積み重ねて行くなかで、子どもたちや園を支える”地域の輪”が作られていくと実感しています。

物的・人的ネットワークの形成



入居ビルオーナーの不動産ビル会社の方と入居企業、保育園、町会協賛の行事への参加：都主催の「打ち水日和」のイベントに町会長さんから声がかかり、会社や町会と共催したことで交流が深まり、園への理解が深まった。その後ビル敷地内の広場「百樹広場」を「子どもたちの水遊びができるように」と貸していただけるように。

他の専門分野の人を巻き込む

地域文化の伝承：西神田三丁目町会長さんと青年部長さんのご協力のもと、お祭りごっこが盛り上がる。「お祭りには神酒所が必要だよ」と、お店の前にジュースを用意して下さった。神田っ子は祭り好き！



パンフレット作成に寄せて

私たちCedepのメンバーは、平成29年度から千代田区の子ども支援課・子育て推進課の保育の質に関わる取り組みに参加させていただいています。その中で出会ったのは、園の保育への「監督・指導・助言」ととどまらない、あたたかくパワフルな取り組みでした。本パンフレットでは取り組みを以下の観点で整理しました。

保育者に寄り添う
保護者の声を聴く
⇒一緒に保育し、一緒に考える

信頼関係の形成

保育者の力になる
⇒アポなし巡回訪問で
いつもの保育を見る
巡回だよりで情報共有

園の課題やニーズ をキャッチ

保育者の声からつくる
⇒「聞くより見る
(体験保育・施設見学)」

園の実践力向上

園の力を高める
園に寄り添い

地域に支えをつくる

課を超えた連携

区民の声から変える
⇒代替園庭の整備
(道路公園課)
地域施設の活用
(高齢介護課、生涯学習・スポーツ課)

地域の人的・物的 ネットワークづくり

他の専門分野の人を巻き込む
⇒警察OBによる安全見守り隊
課が契約した企業バスの活用
自治会・企業との協働
⇒子どもから感謝の声を届ける

取り組みの鍵となっているのは、

- ①子ども、保育者、保護者といった当事者に寄り添って、当事者の声を聴くことを出発点とすること
 - ②困りごとへの園内での対応についての助言にとどまらず、それを解決する具体的な仕組みを、地域資源を活用しながら作り出すこと
 - ③その仕組みをつくるにあたり、園や課を超えて地域の人々のネットワークを形成・活用していること
- だと思えます。当事者の声を聴くからこそ、本当に必要な支援をキャッチすることができ、地域の資源や人々のネットワークを活用するからこそ、実際に園や保育者の助けとなる仕組みづくりが可能になってきているのではないのでしょうか。

本パンフレットが、園と自治体をつなぐ取り組みを考える一助となり、今後、園が孤立せずに地域の支えの中で質を高めていけるネットワークづくりのアイデアが、様々な自治体から共有されることを願っています。

次号予告 …千代田の園を支える、さまざまな人をご紹介します！

アドバイザー
新保庄三先生
(日本保育者支援協会)
区で行っている安全管理
(避難訓練やSIDS対策)
の研修等の支援について、
ご紹介します

私立保育園
園長先生 (企業立の園)
区の様々な支援、地域資源の
活用を通して、地域とつなが
りながら保育を行う中で、園
がどのように変化してきたか
をご紹介します

地域の方
町会長・企業の方
地域のお祭り(神田祭・山王
祭)や、季節の行事や日頃の
保育での交流など、千代田の
子どもたちの保育に登場する
地域の方々にお話を伺います

警察OB・OG
公園安全利用指導員
通称「安全見守り隊」。ど
のような思いで安全見守り
や水遊びの支援をしている
か、これまでの取り組みや
意義についてご紹介します

地域全体で園や保育を支えるということについて、掘り下げてご紹介します。

「千代田区子ども支援課・子育て推進課の保育の質を支える取り組み ～小さなネットワークづくりとこれからの保育～」発信プロジェクト

制作・発行

東京都千代田区子ども支援課・子育て推進課

加藤伸昭(子ども支援課長) 大森千珠子・福田裕子(子育て推進課主任)

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター (Cedep)

野澤祥子・淀川裕美 (Cedep) 宮田まり子 (白梅学園大学/Cedep協力研究者)

問い合わせ先 chiyoda_cedep@p.u-tokyo.ac.jp 印刷 よしみ工産株式会社

2018 (平成30) 年8月1日 発行